

話題

ピックアップ

まちのニュース

皆さんからの情報をお寄せください。
企画財政課広報広聴係 ☎・内線1202



組合の看板を掲げる谷藤盛岡市長(左)と佐々木孝弘市長

新たなごみ処理施設を整備

効率的なごみ処理の実現に向け組合を設立

盛岡広域環境組合設立式は2月1日、盛岡市中央公民館で行われ、盛岡広域8市町の首長らが今後のさらなる連携を誓いました。

同組合管理者に就いた谷藤裕明盛岡市長は「施設を集約することで、環境負担の軽減や処理費用などを抑えることができる。関係機関が連携し、循環型社会の形成を目指していきたい」と力強く述べました。

新たなごみ処理施設は盛岡インターチェンジ付近に建設予定で、令和14年度の稼働を目指しています。



本市を含め名護市の友好都市4市が参加し交流の輪を広げる

名護さくら祭りで市民交流

パレードでのさんさ踊り演舞に大声援を受ける

沖縄県名護市の第60回名護さくら祭りは1月28、29の両日行われ、市からは佐々木孝弘市長を始めとした訪問団26人が参加。3年ぶりの開催となった祭りを通じて友好都市相互の交流を深めました。

初日のパレードに参加した訪問団は、佐々木市長や工藤剛市議会議長を先頭に、八幡平さくらさんさ愛好会の会員13人に名護市の市民も加わり、合同で盛岡さんさ踊りを演舞。踊りと太鼓の音に祭りは大いに盛り上がり、参加者は充実した表情を浮かべました。



沿道から声援を浴びながら約600人をパレードする参加者

鬼退治して無病息災を願う

自分の中の悪い鬼を退治するなど節分を楽しむ

田山保育所は2月3日、節分の由来を知り、伝統行事に興味を持ってもらおうと、豆まき会を開きました。

手作りのお面をかぶった児童22人が参加し、豆まきの歌やダンスをした後、自分の中から追い出したい鬼をクラスごとにステージで発表。豆まきをしていると、突如現れた鬼に逃げる子どもたちもいましたが、全員で立ち向かい、見事に鬼を退治することができました。児童は「鬼を倒すことができてよかった」「最後は仲良くなれた」など節分を楽しんだ様子でした。



鬼は外、福は内の大きな掛け声で鬼を退治する児童

愛犬とともに雪原を駆ける

2001年から続く歴史ある大会に精鋭たちが集う

犬ぞりレースの2023マッシャーズチャンピオンシップin岩手山大会は1月28、29の両日、上坊牧野付近の特設会場で開かれ、「犬脚」を競い合いました。

レースには犬の数や距離別に分けられた10種目に県内外から延べ約270匹が参加。操縦者と犬の息の合った走りに会場は大いに盛り上がりしました。

第1回大会から参加している福島加奈恵さんは「目標に向かい、一緒に走れるのが魅力。今日は練習の成果が出せてよかった」と愛犬たちの労をねぎらいました。



ゴールを目指してラストスパートをかける

小さな事でもできることを

大更小が募金活動で「小さな親切」実行章を受賞

大更小に「小さな親切」運動県本部(田口幸雄岩手銀行代表取締役会長)から「小さな親切」実行章が贈られ、同校で1月19日に伝達式が行われました。

今回の受章は、児童会執行部の呼びかけによる同校のウクライナ支援のための募金活動が、社会に温かな心の輪を広げたと認められたものです。

児童会長の高橋花埜さんは「募金の協力を呼びかける運動をして良かったと思いました。今後もできることに取り組んでいきたいです」と受賞を喜びました。



代表して同章の伝達を受けた児童会執行部の委員(6年)



スキー部の強化に役立ててほしいと安代ライオンズクラブから寄付が寄せられる(2月7日、安代中)



八遭隊と岩手警察署員らが遭難救助技術の向上などを目的に訓練を実施(2月4、5の両日、黒谷地湿原)



生徒の防災意識向上のためハイゼックス(災害用炊飯袋)を使った炊飯体験を実施(1月30日、西根中)



滑走で弾む息を鎮め、的に狙いを定める選手(1月28、29の両日、第32回東日本バイアスロン選手権大会)



冬の絶景を楽しみに、多くの人が七滝の氷瀑を訪れる(1月28日、県民の森「七滝氷瀑・巨木ツアー」)



市建設協同組合(遠藤忠志理事長)がスキー大会実行委員会に大会協賛金20万円を贈呈(1月20日、市役所)